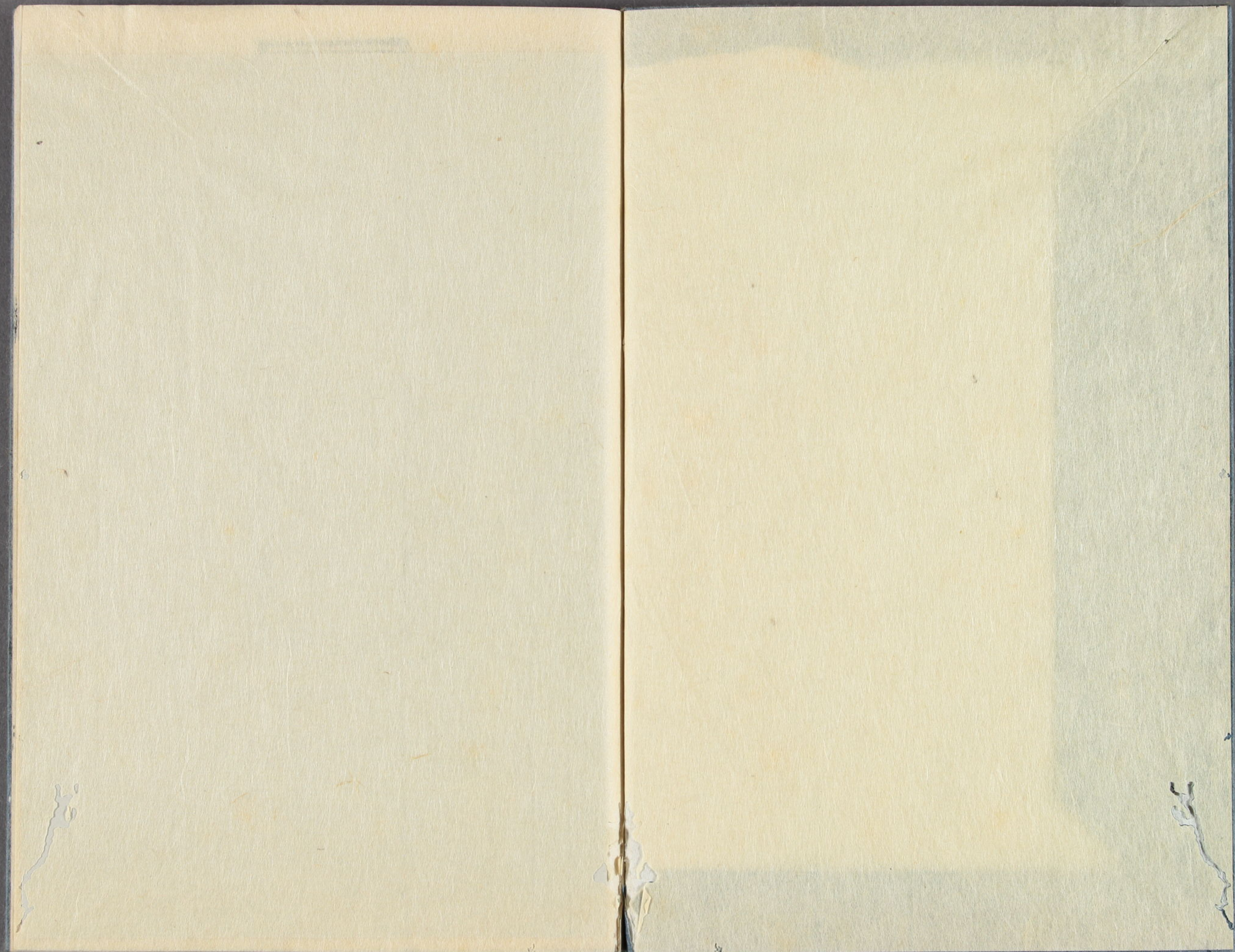




福子之宛

上  
常短六吟  
一





福之丸

常矩六吟  
よ〜



系

常矩

鳧首ガンクビや瓦燈カウトウのまのひら杖の巻

趣向すゝめて一二勺乃月 定治

俗の鯉麻の毛マとふやぬヌらん 由卜

饅頭カマの飛カ山タうウーーうウ 宗雅

七五三ナニイミんンねネほホの夕日ユフヒ 如葉

あアとト棧セキあア乃ノ村ムラあアんン松マツ 利次

引ヒキまマとト与ヨ力チカラ雜雑式式様様とトいイふフ 定治

甲頭カウカウ巾カウカウのノ家カおオろロくク 常矩

袋フクロとトうウ腕ウデれレつツよヨ記キとトいイひヒかカ 宗雅

火箸ヒサシ焼ヤキくク水ミヅもモふフわワるル 由卜

くクとトむムれレむムろロくク乃ノ穴アナ的テキとトりリ利リ次ジ

かカまマとトくクえエ竹タケのノ腹ハラ簾レシ如ニ葉ハ

大和ヤマト膚ツキ皮キ付ツキ丸マル太タ台ダイ乃ノ露ロ 常矩

思オモひヒのノ候ケれレ更マ科カとトいイふフ月ツキ 宗雅

恋コイのノ妹イモ守モとトいイふフ今イマとトいイふフ 由卜

くつりて液鼻聲ニの虫ニ 定治

錦の野ニの玉ニ 如葉

汝本来 素不麵 せん あり 利次

六塵乃油ニをわく法ニの丸 宗雅

出流火宅の門乃灰汁ニ藁 常矩

くいつ常式部ニの花ニをさし捨て 定治

追申く小蝶夢ニの浮橋 由卜

<sup>名</sup> 汝友五等ニにニわけてなく人の 常矩

朱鞘ニを越の白ニ 如葉

老和尚跡ニの自昼ニ自讃 利次

誰ニ位ニ於ニ多ニ朽留ニ打ニ釘 定治

挾箱ニ角ニの律ニやニちニはニえん 由卜

骨桶ニつニわニよニ台ニの下水 宗雅

奥乃院峨ニの巖ニの旁ニありて 如葉

月をニのニ見る木ニ食ニのニ 常矩

こわくニをニ宴ニのニ始ニ巳ニのニ夕ニをニ 定治

長者所今淺茅生乃露 利次

汗の玉霰<sup>あ</sup>ききしし四枚肩 宗雅

うししたき気地嵐もき地 由卜

高生あいのしその長初瀬山 常矩

尾との余はのそな子もむ 定治

<sup>名</sup>雲一筋も矢別なまいうち 利次

た乃眼たう原夕立 如葉

小便那大名風のりももん 由卜

芝居はまりて伏く木同答 常矩

河音やまじし西のまじまきるに 定治

死線おまて波もみ出舟 宗雅

花より気運物ら山をゆかり 如葉

年代記しをんてぬ春雨 利次

常矩八 定治八

由卜七 宗雅七

如葉七 利次七

利次

行腕や松よのこゝて猿の丹

天物のゆく馬やしの秋凡 宗雅

竹内をくし一流の書こそそ 常矩

了代極の野道乃夕言 如葉

指<sup>こ</sup>の根<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>れ草や<sup>こ</sup>ん 定治

七本銚の早<sup>こ</sup>苗<sup>こ</sup>と<sup>こ</sup>比 由卜

矢倉幕<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup>鶴<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>こ<sup>こ</sup>音<sup>こ</sup>す<sup>こ</sup> 宗雅

火挑灯や<sup>こ</sup>孔<sup>こ</sup>河<sup>こ</sup>波 利次

或<sup>こ</sup>時<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>壳<sup>こ</sup>よ<sup>こ</sup>化<sup>こ</sup>て<sup>こ</sup>柳<sup>こ</sup>陰 如葉

賣家<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>軒<sup>こ</sup>子<sup>こ</sup>ん<sup>こ</sup>妻<sup>こ</sup>あ<sup>こ</sup> 常矩

扱<sup>こ</sup>家<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>春<sup>こ</sup>階<sup>こ</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>家<sup>こ</sup>や<sup>こ</sup> 由卜

新中切<sup>こ</sup>菜<sup>こ</sup>よ<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>つ<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>殿 定治

後<sup>こ</sup>磨<sup>こ</sup>折<sup>こ</sup>ち<sup>こ</sup>り<sup>こ</sup>白<sup>こ</sup>乃<sup>こ</sup>朝<sup>こ</sup>日<sup>こ</sup>叙 利次

あ<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>む<sup>こ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>村<sup>こ</sup>鳥<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>聲 宗雅

も<sup>こ</sup>め<sup>こ</sup>ん<sup>こ</sup>ゆ<sup>こ</sup>ぐ<sup>こ</sup>竹<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>下<sup>こ</sup>落<sup>こ</sup>む<sup>こ</sup>を<sup>こ</sup>終 常矩



夏よりよむ物ぞん 鮫肌の月 如葉  
 秋よりぬ 鮫の皮れ 次情 定治  
 料理れ 茄子あつとれよきり 由卜  
 八佛事 貞徳の代とん 夕詠 如葉  
 多ね回乃 雨そん 實相寺と 利次  
 友雲雀花よ 花とて 自我<sup>我が</sup>偶<sup>が</sup> 宗雅  
 看病あぶ 秋のわけり 常矩  
 名 おりぬ 雲あつれの 他人 宿 由卜

月切の契妹と 芥そん 山 定治  
 旅さへ 居るは 澁は 澁今 日よわ 常矩  
 旦那もまてと ありつと かの 如葉  
 袖枕 四辻の 旅より うちんよ 利次  
 伏見の 里そん 同類と 志る 宗雅  
 淡紙を あつと 文字を ぬんて 定治  
 新虎 巻が 髪 髻乃 月 由卜  
 黒沼<sup>くろぬま</sup>の 舟あつよ けく 藤袴 如葉

乞のあまれ多き之の思 常矩

海ありやひひのわらる雨のま 宗雅

まへカウこよ神さる一毛 利次

茶碗の酒其外種みまげ物 常矩

木乃枝あつひて十とよむ後 定治

武  
氏勝<sup>ウ</sup>りやうづわし足袋ねん 由卜

緑の神や 佐<sup>キセ</sup>名たるん 如葉

風呂乃猿水よりひらてすは 利次

口ん根まうくわらむおれのま<sup>マ</sup> 常矩

世中れりし一もらんあつて 定治

ありれつきの小紋うらてん 宗雅

預<sup>レ</sup>けまされ花のこころあり 常矩

又基をいよもつとれま 由卜

利次七 宗雅七

常矩九 如葉七

定治七 由卜七

如葉

女郎花のつらさ 鑑やひてい花  
 常よりひくも 麻のきくみ 由卜  
 お十町坂 鹿のく月 雲を 定治  
 草鞋一足 ちきん 申く 雲 利次  
 夕立や 麩桶上 波を 濁すん 宗雅  
 洞ドウ懸ガキんウき 河 ぞい の竹 常矩  
 木戸 番れ 声よ むくく 友 雀 由卜

糸ウるト 糸ウしめ 糸ウあらし ちり 如葉  
 天ウ鵝ト毛の 枕 ちきん せき 弱山 利次  
 三日 柳 ちれ ちきん の 浦 波 定治  
 垣子 浮や ちきん ちきん 肩ウき 常矩  
 露の 毛衣 紋 かくら ちきん ね 宗雅  
 小落 馬 糸ウちきん ちきん ちきん 松の 秋 如葉  
 新寂 霊位 風 爺 ちきん 月 由卜  
 二挺 鐘 せの 糸ウちきん ちきん ちきん 蚕 定治

奇進乃挑灯小野れりる乃 常矩

繁役老を名理する初雪に 宗雅

今物つげめれ金ころも也 利次

設取神もく外くれりめす 常矩

やこのまへり天秤がたつ 如葉

塵却記よこをいんゆる山の志 由卜

左所のおも落るる東風 定治

お日中名よりあひるる村産 利次

小うたのきりて鳥そん晴 常矩

茶屋女さうこの敷乃下かくれ 如葉

守シ襟エリの垢 立れ埋井 宗雅

母と病ヤ泪の真つまつて死 定治

らうさうせうさそ水の名が根 利次

飛ト常トうトのト文字トやトまトん 常矩

公法師トとト所トとトなトつトまトん 由卜

毛ト種トやト麻トとトんトとトぬトんト 宗雅

カウ乃大名初知入のりんち  
 常矩  
 里れ剣希代のりんち  
 利次  
 羊一号月日書とめん一紙  
 如葉  
 利々美用器とまじくわ萩の色  
 由卜  
 是北勘高とんまき野の露  
 定治  
 ウこ鶴おててがもこに本うて  
 常矩  
 戸乃丸をれおまう早  
 由卜  
 てりこみ音なれた風の音し  
 如葉

春日通乃まきらて  
 山 宗雅  
 窓れ松目このあちまみわ  
 定治  
 正筆れ雲花能夕々々  
 常矩  
 鶯い目連よれ寿ノ結々  
 宗雅  
 君ら起の代と流 新式  
 利次

如葉七 由卜七  
 定治七 利次七  
 宗雅七 常矩丸

宗雅

うかき乃ち色吐ふれ海

種は波くみ家ち刺の産 如葉

凡の垢細口の月や湯せん 利次

ほふれ初め塵出くまそ 由卜

棒鞘乃ほふれ月晴る五月雨 常矩

屋敷のむすわ風わな家ちり 定治

御本紙をうへいま葛城枯て 如葉

み年色く家松そとひま 宗雅

籠乃鯉行末のほろあひま 由卜

水あやつり乃と重れ夢 利次

さる棚よ白糸錦とそとるえん 定治

ハのうらふれとひらひ葉酒 常矩

片名や諸行無常を唱つん 宗雅

初夜のみひまされる水責 如葉

早加る籠や大よ木戸をととぬ 常矩

羽織うつりて思ひの者なり 由卜  
 目のこよ物やちちで 俄る 利次  
 いづくたる者なりしもの 和鞋 定治  
 月のせき飛掃ふは路をさうし 如葉  
 細袋やしくや方のまわり勢 宗雅  
 針さよやのさよ志乃色敷て 由卜  
 小鼻緒ともはくくひとの色 常矩  
 傘やとるをさよする 柳や 定治

揚を入らぬ天乃香久山 利次  
 まさかめて行水の後衣ほを 宗雅  
 あんるくちら夕涼し 如葉  
 ふらふらや濁ぬき蓮咲て 常矩  
 如葉の麩金魚たわきり 由卜  
 見こせせと昔光りしもの 簾 利次  
 豆腐れ串や茗茶 常矩  
 とくそよ今とひる言 常矩  
 如葉

のほりつめそめやうたさしり考  
定治

雲よ新くしたんのをさるまじ  
由卜

末世の無生一刷毛のる  
宗雅

月さすくやとる他力の摺胡鉚  
常矩

くしりの下乃二河の妹尻  
利次

<sup>ウケラ</sup>焼<sup>イヒ</sup>坑<sup>イヒ</sup>色つこあひて樵木所  
定治

くいに野郎のひよと磨丸  
常矩

た吉のまう人目の肉やゆるすん  
宗雅

襟の布賦よれそきをわて  
如葉

<sup>ドウ</sup>筒<sup>ツキ</sup>葉の矢念よかり番うら  
利次

耶ハ駿河強飯れ富士  
由卜

千<sup>ヒ</sup><sup>カマ</sup>鮮<sup>カマ</sup>やうらかさるる花雲  
常矩

葉いしゆぢぐれ藤のたうれ  
定治

宗雅七 如葉七

利次七 由卜七

常矩九 定治七



由卜

魚箸イサハシや力チカラをも入いれて江鮭エササ

花ハナよよなる夢ゆめううああよよすすむむ栗栗 常矩

古釣瓶コツボ土つち氣きくく瓶びんききくく力ちからももりり 如葉

石いし灰はいのの衣え 新あらたなるなる下くだりり路ぢ 定治

茂モ架が籬かき竹たけ深ふかくくここるるひひねね敷敷ちち 利次

天あま一ひとことこととと雲くも乃なりちち〜〜ちち 宗雅

大おほ報ほう張ちやう〜〜ああつつじじたたほほりり次じ 常矩

志しののゆゆんんああききてて寢ね道みち具ぐのの山やま 由卜

大おほよよせせのの松まつ心こころくく〜〜ああききてて舊ふる燈あかり 定治

戀こひせせんん汗あせ漕こ〜〜りりれれ浦うら船ふね 如葉

扈こ從しやう教きやう奇き妻つまああたたりり御ご色いろ〜〜 宗雅

いい〜〜夜よのの枕まくら跡あと目めああららとと依よ 利次

傳つた受う事じ事じ括くわやや〜〜ららななるる家いへ分わけ 由卜

備つとりりのの衣えあありりてて黄わう金こん〜〜らら桐きり 常矩

極ごく樂らくのの度たび紙し障じやう子こ好この〜〜しし 如葉

地獄乃釜奉白粉の更せ 定治  
御取らるは目連の母下女まで 利次  
さら辨舌の人れはわもの 宗雅  
うちつひは借老同穴解<sup>カニ</sup>圖子<sup>ツレ</sup> 常矩  
日法のたも<sup>カ</sup>神合<sup>カ</sup>ぬ<sup>カ</sup>次 由卜  
供よりわ奉知あ<sup>カ</sup>の志とたて 定治  
二番つゝま<sup>カ</sup>れ山笑ふたわ 如葉  
<sup>名</sup>為りす<sup>カ</sup>重らひ<sup>カ</sup>そ<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>し 宗雅

七<sup>ツ</sup>落<sup>カ</sup>銀<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>して嵐さ<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>一<sup>カ</sup>文 利次  
香包やあ<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>た<sup>カ</sup>夏の月 如葉  
芭蕉乃きんをみ<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>髪<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup> 常矩  
大<sup>オ</sup>口<sup>ホ</sup>舌<sup>ク</sup>一<sup>セ</sup>度<sup>ツ</sup>の<sup>カ</sup>抄<sup>カ</sup>書<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>中 由卜  
役付<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>て<sup>カ</sup>路<sup>カ</sup>考<sup>カ</sup>す<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>心<sup>カ</sup>や 定治  
法事<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>な<sup>カ</sup>平<sup>カ</sup>徳<sup>カ</sup>山<sup>カ</sup>浄<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup>鳥 利次  
飯<sup>イ</sup>茶<sup>チ</sup>を<sup>カ</sup>ま<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>炊<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>ん<sup>カ</sup>二<sup>カ</sup>も<sup>カ</sup>と 宗雅  
焼<sup>ヤ</sup>鹽<sup>シ</sup>わ<sup>ホ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup>八<sup>カ</sup>百<sup>カ</sup>座<sup>カ</sup>あ<sup>カ</sup>ら<sup>カ</sup>る 常矩

寐

十五

齒の仕わりも人のいりあがり 由卜  
大の皮を夜の間焚くも 定治  
暖浦いさめて待夜もなるよ 如葉  
酒は自半度とほす神の業 由卜  
繪馬のねよ波ささしと 利次  
新うらむとま鑰とひて水青し 宗雅  
本薬研の谷わらうと 常矩  
夜うし散とく山のう錦 如葉

男麻の床に伏見海道 定治  
世擔よ更け月やみあらん 利次  
茶うらうて水おさされ雲 由卜  
廻向す向は才を寂の畝 常矩  
先今日ハ子代の看丸 宗雅

由卜八 常矩八  
如葉七 定治七  
利次七 宗雅七

定治

麻乃音也昔て尿管ニヒシの小夜時雨

物とくろよみ入猫の目乃月 利次

あづり鳥賊イカ小枝よ白ニヒシ葉候て 宗雅

乱舞の考サカれ根さくうれあや 常矩

肺ハの猿サ実ツなる成シのかさカら 由卜

或シ聞書クり 松樹子年 如葉

家カんてシはハ人のわハひヒらカ 利次

童コ子コをシ討ツとワらフ 定治

四ウの文フすマよニ階ハれハよワと 常雄

あハらハいハす 水ミ怪カのミ又 宗雅

ほハらハらハ命イ無シ量シ壽シ佛シわ 如葉

沙サ活カしヤらハ念ニ者シあハお 由卜

多タ部フ聖シやハ物ツ方フつテ末マ候カ 定治

儉ケン使シ志シくキくキくキくキ秋 利次

世セ付ツのノもモすスそソにニ志シびビりリ月ツキをヲ 宗雅

人肥コころがふふあまの山 常矩  
齋イハヒ宮ふお根崎の海人ウミと 由卜  
沖の小崎よ磨シとさみとぐ 如葉  
ゆびとたの親よ告よ家あわと 常矩  
人買よ身ミ女小判市イ家 定治  
志乃雲古コつをとりて十日切 利次  
やいのイお所つツしシのノ多 宗雅  
名 丑未寅申卯酉トうウ名のノ毛 如葉

とさうサウ毎ミちチねネし象眼カウカンの雪 常矩  
とさうサウめメちチ神カミの川勝カハあアし任 定治  
前道マエミチのノうウれレ初ハジメをヲ子コちチんン 由卜  
金カネなナあア須ス達ダツをヲてテゆるユルされ 常矩  
真山マコ双林スウリン丸山マルヤマゆユめメあアし 利次  
真高マカとト系ケイ脾胃ヒイ之ノ座ザ下地ゲキのノ風カゼが 宗雅  
あアいイきキうウしシよヨさサわワくクとト鳴 如葉  
揚アゲ格ゲツよヨまマのノれレ乃ノおオをヲるル 由卜

三六

とらぬ田今者 志の衣らり 定治  
 筒もせしむ風<sup>ウキ</sup>の月 利次  
 朝乃秋嵐親仁のゆきとる 由卜  
 懐西乃糸よもれも松の雪 如葉  
 尻るあこのごもれん<sup>ウ</sup>として 常矩  
 名よの言を御扶持の火と留魂 定治  
 まるぬ深きらん ちるゆたあ 宗雅  
 初教人<sup>ウ</sup>とてしれ申れ<sup>ウ</sup> 由卜

交野のま柴言<sup>カ</sup>抱もと 樹<sup>ウキ</sup> 利次  
 法性のらあか<sup>ウ</sup>らん花やん 宗雅  
 雲そひえそい<sup>ウ</sup> 瀧谷<sup>ウ</sup>のま 如葉  
 中よこれ一角仙人<sup>ウ</sup> 赤く<sup>ウ</sup>とる 常矩  
 雲<sup>ウ</sup>のう<sup>ウ</sup>て 俳諧<sup>ウ</sup>の帯<sup>ウ</sup> 蚊足<sup>ウ</sup>  
 定治七 利次七 宗雅七  
 常矩八 由卜七 如葉七  
 蚊足一

執筆  
 寺町二条上ル丁  
 弁向屋彦彦板  
 十九終

中本一冊 19.4  
13.7  
墨色老紙  
題箋  
天理圖書館 綿屋文庫  
出づる書牡丹文と空押し

...

...

